

# スプレー缶の 廃棄方法をご存知ですか？

使い切ったスプレー缶（エアゾール缶）の捨て方を正しく理解して、安全に廃棄しましょう。

## スプレー缶を使い切った後に、火の気のない所で 缶切りを使って穴を開けたら 火が出てやけどをしたといった事例がありました。

自治体によってはスプレー缶を廃棄する際に穴を開けることを求められます。缶に穴を開けたとき、残っていた中身の可燃性ガスに何かの火種が引火したものと考えられます。スプレー缶は使用時に温度が下がるためにガス圧が下がり、中身を使い切ったと思っている場合でも、缶の中には少量のガスや中身が残留する場合があります。



- スプレー缶の多くは液化石油ガス（LPG）やジメチルエーテル（DME）などの可燃性ガスが、噴射剤として使用されています。
- 中身が残っているスプレー缶に不用意に穴を開けたり、室内で大量噴射したりすると、周囲の火種により引火・爆発の危険性があります。  
また中身が残っているスプレー缶をそのまま廃棄すると、収集車輛や廃棄物処理施設での火災事故の原因となる場合があります。
- 缶に穴を開けると、①作業中に手などを怪我する ②周囲の火種に限らず、火花や静電気により引火することがある ③中身の出る方向や量がコントロールできない ④途中で止めることができない等、様々な危険性があります。
- 業界では、スプレー缶の中に残ったガスを、確実かつ安全に抜くために「ガス抜きキャップ」の装着を始めました。

※商品によっては、[ガス抜きキャップ（中身排出機構／残ガス排出用／ボタン）]等の表記を行うものがあります。

ただし、不燃性ガス使用の製品・中身が泡状やゲル状の製品・小型缶などガス量の少ない製品などには、装着されていません。

〈ガス抜きキャップの一例〉



ガス抜きの方法

- ①キャップを取り外し、キャップ天面を上にして置く。
- ②スプレーボタンを取りはずす。
- ③缶を逆さにして、キャップ中央の穴にノズルを強く押し込む。
- ④噴射音が完全に消えてから、市町村等で定められた方法で廃棄する。

ガス抜きキャップが装着されていない場合には、中身を使い切ったことを確認し、火気のない風通しのよい屋外でシューッという音がしなくなるまで噴射ボタンなどを押し、ガスを出し切ってから、お住まいの自治体の分別方法に沿って廃棄してください。

### 〈参考〉

一般社団法人 日本エアゾール協会 「正しいごみの出し方」 <http://www.aij.or.jp/exhaust.html>

独立行政法人 国民生活センター 「くらしの危険 スプレー缶製品の使用上の安全性 (No.276)」 <http://www.kokusen.go.jp/kiken/>

## 一般社団法人 日本ヒーブ協議会



当協議会は、企業等の消費者関連部門などに働く女性が、生活者と企業のパイプ役としてよりよい仕事をするため、その能力向上を目的に1978年に設立されました。現在、食品・化学・電機・流通・金融・マスコミなど、企業の消費者対応・消費者教育・広報・商品開発・営業・品質管理・CSR部門などの多様な業務に携わる女性たちが集い、異業種交流の特徴を活かしながら、情報や意見の交換を行っています。

東京の他、関西・九州に支部を持ち、2014年3月現在、賛助企業24社、会員が所属する企業76社、正会員92名が月例会や分科会を通じて、生活者と企業の信頼ある関係構築へ向けて活動しています。

日本ヒーブ協議会 HP <http://www.heib.gr.jp/>